



里見八犬傳

第四編

卷之壹

709
16



曲亭馬琴著

明治二十六年十月九日購

第四輯

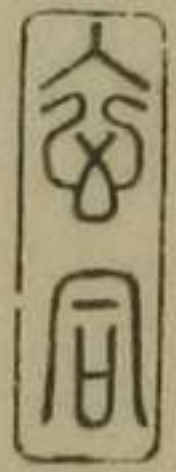
八犬傳

東京名山閣版

遠門 13
號 709
卷 16



八犬傳第四集叙



狗之守夜也性矣敬主職主也亦性矣諺
 曰。跽狗吠堯。此非其狗之罪。臣子之於亂
 朝。善守其職而無私者。亦當如是。是何者。殷
 王賢不忠於西伯。然周不敢罪之。故孔氏
 曰。君雖不君。臣不可不臣。父雖不父。子
 不可不子。蓋比干箕子等之謂歟。由是

八犬傳四輯卷一

觀之其性所捷雖狗無以異人也。嗚乎與
夫食君之祿而令父母愁。夫妻相虐。兄弟
為讐。遠舊迎新。信々呀々。走利者。大有運
庭。宜國有賢相。則無姦佞之賓。家有良狗。
則無窺竊之客。於是四鄰可不勉而衛比。
屋可高枕而睡也。是余之為八犬傳。所以
寤蒙昧。抑取義於茲。其書若干卷。既刊布

于世。頃又繼編。至於第四集。刊刻之際。書
肆山青堂屢來而徵序。甚急。每編有自序。
今不可辭。因附增數行。以塞禮云。
文政三年庚辰冬十月端四。書于著作堂
西廂山茶花閣處。

飯台 曲亭蟬史



南總里見八犬傳第四輯目錄

第三十一回

水閣扁舟
江村釣翁
認雙狗

第三十二回

除角旛
試角旛
修驗解爭

第三十三回

小文吾夜喪麻衣
現八郎遠求良藥

第三十四回

菜崎房八齋宿恨
藁塚犬田緩窮難

第三十五回

念玉戲借笛
妙真哀返娘

第三十六回

破忍犬田與山林戰
含怨沼蔞傷害四大

第三十七回

病客辭藥延齡
俠者殺身得仁

第三十八回

戌戶外一犬拉間者
返徵書四彥辭來使

第三十九回

浮葉壯士送兩友
起雲霧神靈奪小兒

第四十回

誣額藏奸黨逞殘毒
射羣小豪傑鬧法場

八犬傳第四輯目錄畢第二十回已上目錄見前集卷端

三卷 四卷 五卷

壹卷 貳卷 卷





節婦如牛
其子捷親
信天翁翁

四言

沼田

大八



蕭鳴夜笛
惟貞是烈
哀而不傷

芳流舍
雙韻

大先達念玉

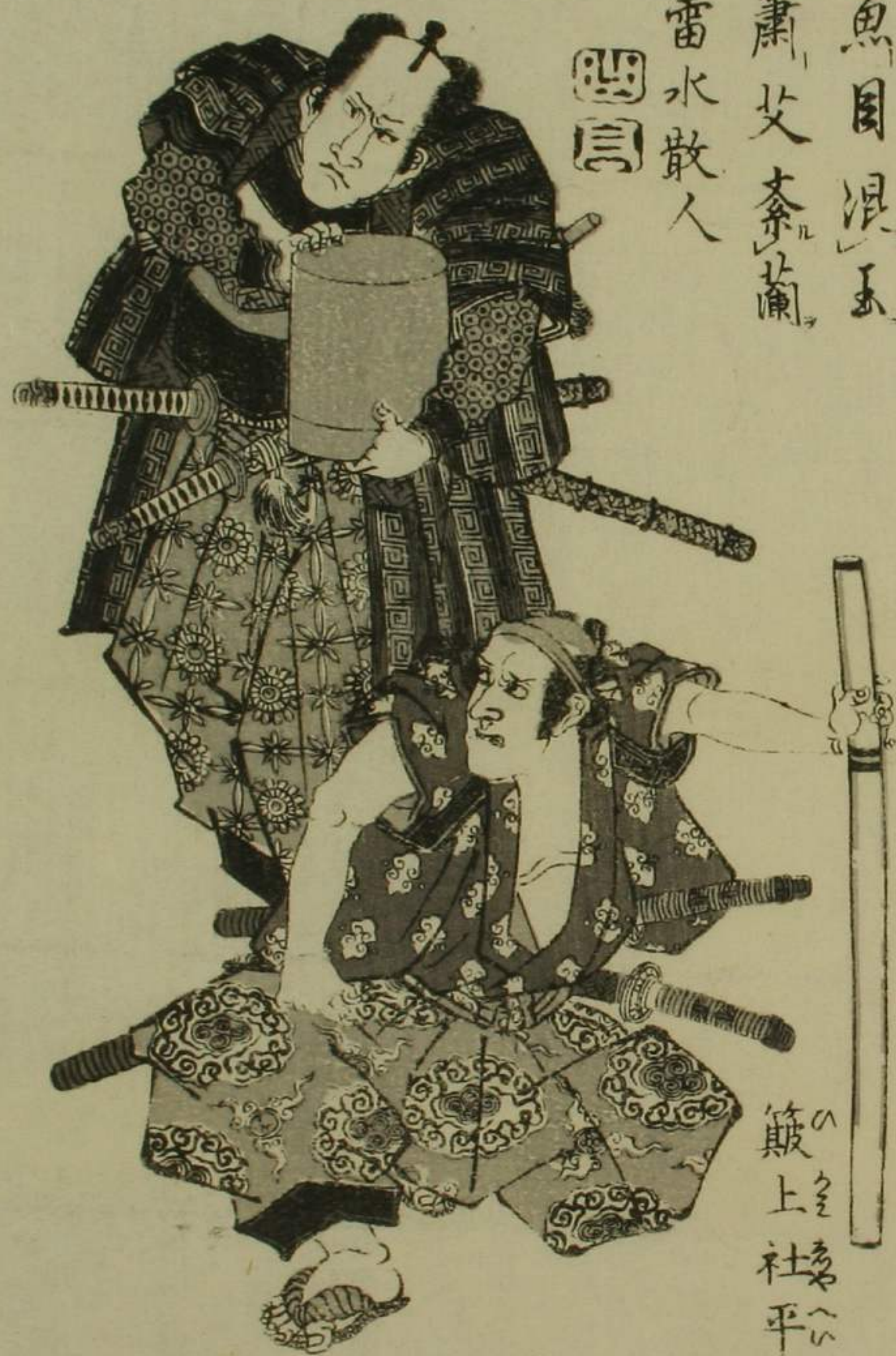
戸山妙真

山本堂藏

五

山本堂藏

新識帆大夫



魚目混玉
蕭艾奈蘭
雷水散人

簸上社平

大傳四車卷一

命惟雄
薄靈白
扶神
琴前亮



古那屋又五兵衛

一犬當戶嵐賊不能進矣
 犬平犬平勝於猫思似序
 乃波半半滿乃夜を毛は犬ハ
 猫ちち良傳あて末乃久品伎
 弘秀英波婆可為

鷺島齋刑人狂題

南總里見八犬傳第四輯卷之一

東都 曲亭主人編次

第三十回

水閣の扁舟西雄を資く
江村の釣翁雙狗と認る

いしるの人のいさむる禍福の糾纏の如く人間萬事往々塞翁が馬あり
 あり。その福の倚る所將禍の伏する所彼亦あまふ此亦あり。と云ふ人も豫て
 誰うその極を知ん憐む。犬塚信乃の親の遺言紀の名刀心小右の身は
 傳の艱苦の中小年を経く得る時をぬく。をたしく詩我(齋)名を
 揚家を與をへる。その福禍とありたりたる村西の刀の舊の物あり。は
 身を辟く雙言とをあり。憾とあり小釋ともあり。緯急あり意外あり。僅か
 當座の辱を避る。と云ふ。小野の圍を殺関あり。芳流閣の屋の上。

八犬傳四輯卷一

山崎堂藏

攀登まとも左右小脱を死道のまのまに其れ必死を究めたる公の中へいつあり
 けん想像さふいと痛ま。されば又大飼見八信道へ犯せる罪のあまざりて月来
 獄舎小敷れ。禍へ今恩赦の福我が縛の索解く人ゆをかる捕まの役長犬塚
 信乃を擲めよとて勅小擇出されし他の憂を自の面目今更用ひてまゐる。
 願しうとて思ふも推辞と許さるもあまぬ君命重く弥高死彼樓閣を
 二層その二層ある檐の上まゝく身を霞せり登りて足下遠く雲近く
 照る日烈く堪えられ六月廿日その小もけりも乾蒸の燄熱をこころ敷瓦ハ
 凸凹隙も波濤小似く下大大河溜たる。生死の海小朝る潮洄ハ名小
 負ふ坂東太郎水際の小舟楫を絶て進退既小谷下。敵めおれはのそこれ
 撃つ苗んと艦の樹竹ふかくささくと登果る。三層の屋背ま目紫翳しりも
 ちく送小透を短ひく。疾視あめく立る形勢浮圖の上る鶴の巢と巨蛇

の窠ふ小似りけり。廣庭ま成氏朝臣横堀史在村小の老黨若黨圍縛せり。
 床几小尻をうち掛て勝負怎生と向上る亦只閣の東西ま身甲を許さる
 士卒鎗長刀を日光く。或ハ箭を肩ひ弓杖突立組ど落る。留んとく項を
 反しこまを觀る加旗外面ハ懸連とく杵ある河水遠ま砌を浸せ借使
 信乃武良長替力衰むと見ハ小捷得るとも墨氏が飛鳥を借さま。
 虚空を翔るべもあまぬ魚骨般が雲掠る。地上小下るもあまぬ渠鳥
 ろまも羅小入りぬ獸まもも待場小在り。一寸息絶ま不辯ま休ん脱れ
 果どとんえとけり。當下信乃おめかす。初層二層の屋の上ま追登る
 とせり兵ホを破落しる。後ハ絶く近つめとる。今口ハひり登まぬ。
 小のちぢえあつ力士あん這奴ハ是膳臣巴提便が虎を暴ゆ。勇あ所狄又
 富田二郎が鹿角を列く力わ。狄遮莫一個の敵引組ど刺送へ死ま。小難死とる

あつた敵ゆとつた。あつた目小おんせんと血刀を袴の稜りく推拭ひ高瀬の如く
 方掬小立る儘小寄るを俟ハ見ハ亦あふなり。彼犬塚が武藝勇悍素より
 萬夫無當の敵然とも搦るも他の援を借るとわ獄舎の中よりこの役も
 擇出され甲斐もろ。搦捕るとも敵もとも勝負を一時小決せんぬかかひのふ
 け此も擬談せし御説さふと呼りけり。合する十と閃く。飛が似く小方掬の
 左のこり進登り組んととも寄つけむ。あろゆると鋭大刀風は勢を
 發石と受留す拂不透さた數刀尖を柱に流を上一下。這る躑躅と頻に
 進む捕まの秘術彼方もあふぬ手煉の働た岌より。あとき大刀筋をあらこち
 外を虚々實々のま。勝負を判じし。廣庭ある主後士卒ハハ小汗握るもあろく
 瞬もせぬ氣を籠る。こるあものを向る。さほ程小犬塚信乃ハ侮る見ハガ
 武藝小敵とゆるとけり。とるハ勇氣弥倍る。刀尖より火出るまで寄て返す。

大刀音被声。西原深山小挑むとれ鋒然とく風度り。二龍青潭小戦ハ時沛然
 とく雲起るも。かくぞあれ春さるハ峯の霞秋夏あるハ夕の虹飲とる可
 ろ。いと高閣の棟ゆり。死を争ひ。為体ハ未曾有の暗業ある見ハ
 被龍の餘眩當の端を裏飲する小切裂とく。大刀を抜む。信乃ハ刀の刃も
 續て。初小浅瘻を負ひ。漸々小疼を覚れ。も足場を揃え。攪おる。む。疊
 みく撃。大刀を見ハ右小受る。かき巻。小つけ入りけ。ヤツと被る。声と共ハ
 眉間を望む。礮と打。十手を丁と受留る。信乃ハ刀ハ鏝除り。折さ。逆小飛
 失せ。見ハ。と。組む。を。隨左。小引著。送。利腕楚。と。合。を。
 振倒。と。曳声。合。と。接。の。接。る。ち。ち。足。此。彼。齊。一。踏。に。河。邊。の。さ。え。瘻
 滾。と。身。を。輾。せ。覆。車。の。米。苞。坂。より。落。ま。小。異。形。を。高。低。險。に。棧。閣。に。
 削。成。る。蕈。の。勢。ひ。止。ま。く。も。あ。と。め。れ。と。送。合。る。巻。を。緩。め。と。幾。十。尋。さ。る

狂天翁
信翁

約々然

まけり

馬鹿

世の中に

刀のゆ

あつて

文五兵衛

天塚信乃

うち落も
鼓のこもや
桐一葉
東岡舎
羅文句

天飼見八



邊へ退出。本藩の武者頭新織帆太夫敦光を追捕の大將小澤定めく。
 件の君命を速傳之癖者信乃が相貌へ和殿よく認りつらん又その武藝剽技へ
 和殿のよく知る所かよふ容易捕物あむむちうく成りて征せんより。知をりて
 其の謀を謀るるをいふめれ。縦渠。船中ゆく死うとも。その首級捕て進せせらふ。
 駿馬の骨を買つる。勝ん。縦日暮るるとも。通霄路次を急ぐへ。遅くして罪と
 せらるる。嚴に。旋に。帆太夫うけりて。異議小及む。俄頃小行装を整へ。日ハ
 西山小傾く。比。夥兵二十餘名を招く。詩我の城下を待ちまのちと。板東河原の下流小
 添く。葛飾のくふ。赴た。不題下。総國葛飾郡行徳。入江橋の梁麓。
 古那屋丈五兵衛とのみかのわたり。渠ハこの土地小。居停主人たり。妻を
 一昨歳才より。子ども只二人あり。家子の名を小文五吾とのみ。今茲ハ既小九歳
 あり。身長ハ五尺九寸。穴堅く。骨逞く。膂力ハ百人小も敵とく。器量ハ絶く

市人小。似ま。性よく。武藝を好む。総角の比より。親小。隠し。友小。離れ。師小。就て
 技を磨く。程小。劔術。巻法。相撲の手ま。習得むとのみ。その次ハ女子小。
 十九歳小。名をぬ。その名を沼菫と。鳴き。その年二ハの春の比。鄰郷なる市
 川の舟長山林房八郎とのみ。壮伎小。帰ら。その年の尾。や。男兒を産り
 けり。その大ハと名つけ。今茲ハ。四才多。此も。這丈五兵衛ハ。賃殖の
 隻小。疎け。その家素。富小。あ。足。衣食の欲
 寡。暇ある。江小。立。釣。死樂あり。時小。文明
 十年六月廿一日。この濱邊。牛頭天王を。祭。日ハ。江山。没
 ころ。里人浦人。ち。雜り。船小。神輿を。乗。濱邊。澳邊を。漕。廻
 吹鼓。舞踏。疫鬼を。禳。或ハ。海の。幸を。祈。或ハ。塩濱の。敏。昌を。禱
 土地の。恒例。け。毎小。酒を。置。遊樂。暇。日。た。丈五兵衛を

さふまぢゆも耽らむ。客店のるゆ。あまふ日間の特小徒然に祭祀へ曠昏より
 られハ晝寐し候人も無益。霎時ありとも樂んとも釣竿を推乃とむり入江ふ
 立ちの。蘆を折布死坐を白く。餌を串釣をちりせりくども時ハ下晡小近つれく。
 虚潮の最中あるまが小沙魚ひらの獲もなれど好む夏とく立も泊るまむ夏を
 忘る浦風小蘆兼戦れく夕陽の影を奈し。水や天ある走帆小沙鳥飛く。
 江山の雲入る江小臨石小坐まると死萬事只無心をり。公干は揚綸と垂る
 と死二公ゆも換る。と古人のひえん宜あるまが一波動れく。萬波皆後ひ細
 鱗踊る巨魚あつを知る。樂いも央あるまむ。あや死放舟潮小引れ波小
 揺まて河源より流きまわ。水濤木小堰まて招まむ。あつこの岸小著をんれハ
 船中小兩個の武士あつ。此彼倒まて死せるか如く。あつこの岸小著をんれハ
 煩勞あつ。とあつハ下をとり直る。衝流さんとも。熟入る小倒まて一個の

武士の茶褐色の麻衣小縹色。麻袴の下折揚と臈を頭。頭髪を乱し。
 齒を切り。左の肘と右の股は負る浅瘡二個所あり。又倒まて一個の武士を
 細録の著龍勒壯まて。平金の竹條龍手小亀甲入る脚箱をる。久を切
 列衣まて。是も左の肩尖は浅瘡一個所負る。月額の亦長く伸く。鬚結割
 離し鬚の毛の茶まて。顔小かまても右の頬尖小痣あり。形牡丹の花小似る。
 是も豫と認る。その人あつむ。とあつハうちも措まて怪し。皴乃為
 体小うち騒ぐ。宵を鎮め。江水小引く。その纜小釣鉤をうち掛く。かま
 下は引く。汀渚の石小敷。前め。躬く。その船は乗程まて。又これ彼成
 つく。とんや。情想像。ふ。氣息ハ絶る。如く。あまふ。正しく死まふ。深瘡は
 あまふ。船もく人と戦う。西人共は倒れ。後まて。此彼戦み。齊一
 倒れ。あまふ。歎呼活。あまふ。緑故と知る。あまふ。あまふ。頬小痣あり

人を抱え起し。声高か小呼りえし。勅どもとどろきあしく呼吸復らる困に
 果之又臥さしめ。軀く宿所は走りく。薬を取ら来むやとて。こころをたぶらむ。
 素肌もく倒し。武士の腋腹をささる小踢くけ。死活の法や稱ひん。
 忽地小云と声さく。身を起し。四下を見えり。抑あへ何國の浦ぞ和殿ハ亦
 是何人ぞと問して。敬馬く。丈五兵衛ハ小膝を突く。顔も成里公ありて呼
 活ら。この人いさもあつく。識らぬおん身が生。存致あら下総葛飾より。行徳の
 入にあり。某も里の旅店丈五兵衛と呼らぬ。この蘆原小釣と折この船ハ
 流し寄らり。あの頬尖は痣ある人。澁我の御所より走卒。大詞見兵衛ぬ。
 のうとれをちのぶま。子。豫く認まらう。われがうちも措き船を引よせ。
 の一子見八信道とあり。と豫く認まらう。われがうちも措き船を引よせ。
 扱さむく小勅。程ゆつらむおん身がまづ生あり。同藩中の朋輩ある致船小
 倒し。とらまらむ。流しをぬる故とをわめ。その顛末をいふぞや。と問へ

まぐく嘆息。後難を憚く。苟中も偽飾んと欲する。武士らぬ。本意あわと
 いでや古又の實を告ん。とて武藏の江戸ふらた。大塚村小由緒ある。郷士大塚
 信乃成孝といふの。祖父匠作三成ハ成氏朝臣の兄とせ。春王安王両公
 達小傳とせま。里。結城もく戦歿をり。父大塚番作ハ深疾ふよりて行歩
 かのいむ。廢人とけり。一ハ舊領大塚村小退隱。齡四十五歳あり。文明二年ハ
 身やうりぬ。そのとれ吾侪も十一歳腹うらね。伯母とて。夫の家をわづ。小年を経く。
 此度澁我へ赴いた。親の建言ある。彼公達のおん像見。村兩の名刀を。
 祖父匠作より相傳へ。吾侪もく。二世小及り。時到ら。澁我殿へ進ませよ。
 とのいど。親の志をいそ。嗣んとせ。年来守りて。腰よとる。さだかう。今時を
 ぬ。とて。澁我へ齎せ。小山堂とせ。んや。件の宝刀ハ人の為小抜かえられ。然
 見。糸の目小知るめ。とて。成訴す。い。とて。敵が。りの。間諜者歟と疑。とて。

己が為の薄命。虚実も糾さず。狐疑あつた横堀史か下知小後不當坐の力士
 數十人生拘んとくむさう。これ阿容ことひ成束と縛を受獄舎小敷を
 無質の罪小命を損さば己が為むとの恥を父祖の名をくもつべしと
 多へ危窮を脱とえ為小巳とをひき血戦しく。廣庭小走出檐より檐小傳ひ
 いと高丸屋の棟小登り且息成吻く程よこの大飼見八とやえ和殿小うて
 その名を知ぬ只ひより追登る時根るよぐ挑戦ふ己が大刃竟に折れりか
 引組と接あふ程に齊一足を踏にり組る儘小外面なる。大河の岸小勢死
 る船中小落ゆれと心ひり。その後を志すむ人も我も息絶く流さくすの
 事さるるを今さうかひ不落ぬつとたふの繼ハ張勢と潮のまみく流されん
 不思議といふは是のまきと初戦ふとたふのちもむつさる今見ハ面部
 の痣の牡丹の花小似る皮小まきとと款と心ひ合さる上あり。己が故郷ある

大塚小糠助と噂さる。いとも貧乏百姓ありけり。己が父おまそかり一時間ちろく
 住りのあるま左左右よつけ疎まむ父あくなき後ある日己が狐小あま一皮
 憐れ忠心得る心大なる形とまきとこれ亦誠り文らとこの形かて件の糠助ハ
 去歳の七月某の日小時疫小ふまきと才まより小兒己又その折小聊薬餌の
 料を贈り老病貧苦を資する恩を感。義又仗てや。その臨終よける
 あり。その言ハ如此。この箇様と糠助が安房を追放せり且此行徳
 の入江橋よと嬰児を抱えり身と投んとする折武家の飛脚小推林とれ
 その諭ゆより。己小任と絶小二歳の子をその人小贈り。る夏又の縁を説
 示。當時件の武家の飛脚ハ成氏朝臣の御内人と伝へるのまゆと名字を問
 糠助も亦名告るまきと。己が別とて。己が親子再会のよめがたれ。己
 くれも糠助の子の乳名をま吉と名つけり。その生まれあつて右の頬尖小

くらねが願字一甲非丈ありと彼見もよく肥なり。かこ一月のまろを麻と。見兵衛
 ぬ又るへ来と伴の児を迎とりゆれ。是より懇切をせめよ。と年始小状と。りふ
 まよで矢の音疎疎と。む子ともの安否。代訊問と。夥の年と。經る程。小一昨歳
 の秋の比見兵衛ぬ。八里見殿へ。ちん使を。けり。その。此。さ。ふ。その。子。共。侶
 こが家。止。宿。の。扱。ひ。け。り。か。こ。こ。既。小。老。と。ま。び。あ。ぐ。く。後。義。と。勤。く。り。り。こ
 拙郎見八小見習せ。と。と。と。横堀殿。請。ま。う。く。後。者。ぬ。と。お。と。お。れ。り。
 實。ハ。丈。夫。よ。り。う。を。和。殿。丈。婦。ぬ。こ。ん。せん。為。も。渠。總。角。の。比。り。を。て。太。さ。る。よ。に
 武藝を好め。いと。あ。く。より。二階。松。山。城。ぬ。ぬ。の。教。を。受。く。弱。輩。ま。が。う。拔。萃
 の。高。第。と。稱。せ。と。就。中。卷。法。捕。物。ハ。法。捕。中。を。双。の。力。士。と。い。り。る。その。虚。名。知
 らぬ。此。ハ。得。る。も。も。あ。る。こ。の。子。を。養。ひ。と。り。時。内。室。の。乳。を。こ。り。と。字。育
 きて。恩。義。あり。か。ま。が。子。息。小。丈。吾。と。俗。小。の。乳。兄。弟。ぬ。と。その。年。歳。も。同

小丈吾も武藝を好む。筋骨の逞げ。多。臂。力。も。さ。と。推。ち。う
 へ。ぬ。ま。う。う。此。と。彼。と。好。む。野。も。相。似。り。彼。小。兄。を。く。こ。ま。ふ。才。あり。と。か。め。の。忘
 じ。ゆ。ん。為。小。丈。吾。と。見。八。と。兄。弟。の。義。を。結。せ。る。久。後。も。も。憑。り。か。ん。和。殿。の
 心。い。ふ。と。同。と。某。一。諺。小。及。び。妻。小。告。子。小。丈。吾。と。躬。く。その。意。小。任。し。修。く。
 聊。酒。宴。の。席。を。閑。死。て。勸。盃。の。義。を。と。り。ゆ。見。八。郎。ハ。長。祿。三。年。十。月。下。旬。小。生
 じ。り。り。護。符。賣。小。の。ま。ご。の。正。し。書。札。あ。り。と。い。ふ。こ。が。子。小。丈。吾。ハ。か。る。年。の
 上。月。小。生。れ。ぬ。一。個。月。の。遅。速。さ。も。長。少。の。願。分。明。か。と。その。詰。朝。犬。飼。親。子。ハ
 辭。我。へ。と。く。還。る。餘。波。を。惜。ま。ぬ。こ。が。妻。へ。の。程。さ。く。持。病。の。病。さ。く。積。く。ゆ。と。も
 果。敢。さ。く。世。を。折。り。見。兵。衛。ぬ。と。去。歲。の。夏。病。こ。が。ら。か。と。一。旬。あ。ま。り。と。れ。も。黄
 泉。の。友。と。と。り。ぬ。と。風。の。便。小。ゆ。え。と。り。と。ま。ま。今。こ。の。あ。れ。人。ハ。こ。が。子。小。丈。吾。ハ。義。兄。弟
 あり。こ。が。子。と。か。り。小。丈。吾。ハ。善。と。與。し。義。小。進。め。八。里。の。辻。長。と。く。達。さ。る。ま。で。使

氣遣い寒りやうが何とゆらんもれた縁故を安んずふおん方素より悪心ありと
 の人を害せしむるもこの人も亦忍ありと。おん方を搦んとしつるふあは彼が戦ひ
 へ君命をいふに困をうち破り難を避んとその私情のりか
 ちん方へのる人の実父をいふは糠助と申すおん恩義ありと。このる人へおん
 方ゆありと實父のうを巨細の知りておん方君命ありとも辞しおん方捕
 の役を立ぶるも。おん方亦さうさう始よりこのる人へ名告ありとあは山豆
 組敷のく高岡より轉落す小至んや。さうは終つてあは戦ひの緯のあは只
 是過世の業報初日か呼活し見へへの生もせむ。おん方ひより甦生せりとも命
 運ふよりのあは今さう誰を恨ん人へおん方と申す。陸より走りて
 影を隠し後日の出宗を脱し又この亡骸へ入しよかけを。こが子小文吾小うを
 生り。こもかむ花井よりさうとゆふと信乃はゆの頭をうち掉り義理著

明き和殿の教解好意の情のふ似こども。こは疎忽めと村西の室刀を入ふ
 扱えられそをいひ釋小證さく。このる人へ殃危を醸せし。今更逃く大塚より
 伯母夫許立えと。辭我の御所より阿容とと搦捕るより。恥入人の人へ
 へ死より仁小本づれ義ふはと。只く恥をさす。又且和殿が物さる。この
 大飼見へは糠助が子さる。各告ありと。定ふ知り。知らる。是非あり。
 知らる。命の。一旦諾ひ糠助が送托小負く。こは不義入百年の壽計を
 有とも不義の奴といひ。世小立らひもあさう。たましく男子とせし。こが
 國の為又人の為。功もさく徳もさく志をゆ遂ぐ。十九歳の今を一期の狗
 死をせん。憾げん限りをさす。薄命の致と。所いふともせん。五日後に
 より遠く親族のる。おん方只大塚より。村西の小厮額藏と。男と。年未
 竊小義を結ぶ。口は異姓の兄。その本名へ大川莊助義任といふ。めそ

は。備この人の情わらぬ。果る。か。人。死。潜。中。の。渠。み。告。ぐ。こ。こ。腰。刀。の。
 許。我。の。措。ぬ。合。ひ。さ。り。刀。を。郷。小。折。れ。さ。り。せ。め。く。この。見。八。の。刀。を。借。り。て。自。殺。せ。ば。
 死。さ。る。人。を。も。欺。さ。る。誠。と。あ。る。と。端。と。も。あ。ら。ん。と。さ。ら。と。く。右。の。と。さ。り。伸。と。見。八。の。腰。刀。
 拵。な。る。刀。と。取。り。抜。ん。と。さ。る。を。文。五。兵。衛。推。禁。め。の。り。と。趣。理。り。あ。ら。ん。と。か。く。ま。で。い。
 道。を。立。て。義。小。一。向。あ。る。人。ハ。い。さ。す。と。さ。可。惜。し。壯。伎。を。死。ん。と。の。か。と。く。殺。さ。ん。や。且。
 この。刀。を。放。め。い。さ。く。と。ま。え。情。は。似。と。さ。く。小。情。さ。り。見。八。共。侶。甦。生。せ。ば。和。殿。と。
 勞。さ。し。迄。も。あ。り。再。び。勝。負。を。決。ま。せ。無。二。の。友。垣。結。ぶ。と。さ。その。時。宜。小。と。さ。の。ゆ。め。か。う。
 あ。ら。ん。と。い。ふ。も。あ。り。これ。も。亦。男。子。に。禁。ら。ん。と。さ。く。と。ま。え。止。其。れ。退。め。と。振。拂。ひ。刀。を。見。
 上。と。取。り。て。壯。小。突。立。ん。と。さ。る。程。小。死。せ。り。と。さ。の。見。八。忽。地。岸。破。と。刃。を。起。し。て。い。
 初。め。大。塚。生。と。さ。り。あ。ら。ん。と。呼。さ。り。信。乃。が。利。腕。引。禁。さ。り。と。ま。え。と。い。え。の。信。乃。よ。り。も。
 文。五。兵。衛。の。故。馬。呆。れ。眼。を。睜。り。肘。を。張。り。心。を。盡。と。吻。息。ハ。浦。風。も。あ。ら。ん。と。さ。る。

第二十二回

柳。權。を。除。く。少。年。號。を。得。り。
 角。觥。を。試。て。修。驗。争。を。解。く。

當。下。信。乃。の。貌。を。改。め。さ。ひ。さ。り。大。飼。生。縛。絶。け。ん。と。さ。の。い。の。程。少。甦。生。と。今。
 幾。條。の。問。答。を。側。小。の。某。が。自。殺。の。刀。を。禁。ら。ん。と。欵。と。向。ハ。又。文。五。兵。衛。も。及。せ。り。
 胸。を。擁。む。ろ。一。嚮。め。あ。ら。ん。と。呼。活。ら。抱。起。し。勸。す。心。盡。の。届。ね。ば。ち。歎。死。と。さ。
 ける。小。醉。さ。る。人。の。醒。る。か。如。く。醫。師。も。い。さ。と。造。作。さ。る。甦。生。小。と。さ。も。安。堵。た。り。
 心。地。ハ。何。と。い。は。れ。ば。と。向。ハ。見。八。ち。点。頭。さ。り。さ。り。も。理。え。要。時。と。さ。と。さ。と。彼。小。
 物。を。あ。ら。せ。さ。る。ゆ。え。と。小。憑。り。れ。舊。識。良。友。け。ん。の。入。江。小。流。と。さ。る。芦。分。船。の。
 中。小。齊。一。面。を。あ。ら。ん。と。不。思。議。と。い。ふ。も。あ。ら。ん。と。あり。嗚。呼。賢。さ。る。大。塚。の。
 言。ひ。て。義。と。貫。く。その。肺。肝。を。知。れ。ば。卒。小。林。め。さ。り。と。さ。の。刀。を。措。ぐ。と。い。ひ。の。
 取。り。鞋。小。納。め。喃。大。塚。主。古。那。屋。の。翁。今。猛。小。牙。を。起。せ。り。と。さ。る。体。の。慌。し。を。訝。

一。辭我中を程りけの護符臺を失ひて今も不果が子小あえんそれを證ふ
 多の紛とわづととのまらその玉今もありやと向見八の邊しは膚小者
 囊の笏を解きとち披見某竟小縁ありと和君小名告ありと廿六実父の
 人を斯ま小巨細小ありのわえんや月来獄舎小撃れても護符臺を放
 さむ心てその玉を失ふ死塵さまを戻さ小あわると回答くかを
 玉をさし示せ信乃は受たりとつとく日名隋王夜光に認らる十五城小換多
 宝中そと稱ま見八の懐舊小ぬ堪を目皮をさへ死物数ありいある
 ねど某が養父の名乗を隆道と唱りよやく又某が名を信道と命けられり
 道六則養父の隻文字信則この玉の文字をすも表りて実の親の像見との像
 仲の今も玉の出知らよも奇んこも思入犬塚和君の賜ありけりとい
 且信乃の憶まぬありと額を拊その和殿のまらえんや某も亦本意小稱へり

過分の賞美ハ當りぬこの玉をんくこが親をむむうあり又二條の奇
 あり某もこの玉小毫釐違ぬ我藏るその玉小孝の字あり原是母感得と
 失ひぬふえんその母世を断り父の身まうけるといふ云云の故ありて与四郎
 と名つける家狗の瘻口より件の玉いあられぬ某が子小入りぬ只この奇異あり
 ありまその玉を獲つ比忽然と其が左の腕小瘧いで牙小形牡丹の花小飾り
 介後八年なり經と糠助老人が送言小魚腹は獲る玉の和殿の瘧の上でも
 詳小説示されり竊小也バゴ玉と又小瘧小相似りこれ宿業の致を所致
 友大川壯助も感得の玉こまあるその玉小義の字ありと義任と名られ
 とも假小字を額藏といふ渠ハ身柱の房りより右の胛の下ま瘧ありてその形相
 同小かれ糠助老人が子もこれと異姓の兄弟ありと名ひてやうとて友の
 いとまう心地今その人と玉をんくいと過世あを知れりこ玉をんく疑ひ

立地小氷解せんといひつ且見八小渠が玉を返し項は掛さう懐裏の初解披死て
 玉を視せ左の肩をむ祖を腕の痣をさへせし見八つとと玉はつと
 痣は見る奇也妙也と唱歎し信乃と面を合はるとの屋かりけを噓るの意小
 ちやく玉を取る囊小納め項小掛共侶小跪天地を拜し誓言を立く彼桃園
 の義と結びぬ文五兵衛ハ初う黙然とよ成又た此彼の物語をつくとて
 今傷より二顆の玉を刃をすまき驚嘆しと兩人小ち對ひかひハ鴻濤小似これ
 とも子小文吾ハいぬ比見八敷と兄弟の約をまゝする越ハ既小も上小りつと
 大塚殿の侍はあまど只その爹と見兵衛ハの懇小任せしと今更おのハ
 小文吾ハ大塚殿小も過世あつ然とこの盟約の席の下小與るのあぐ渠ハ
 一顆の玉をとりその二顆の玉小似る彼が玉小見れら文字のそ異小り孝悌
 の悌の字ありさるゆより市人小あつてもあつと名告さ渠みりて撰定めて悌順

と名つたり玉の文字を取ると件の玉の出如と諦み聊又大飼生の魚腹の玉と相似
 たり。その小文吾が尚襤褸ありける時食初の祝を赤豆飯を造りて膳物蔬物羹
 膾形の小如く安排す折敷を嬰兒小推さる。飯粒を哺舐るとと高盛の碗中へ
 衝突し箸小かきと液と落とす物あり。取ると其件の玉と原その碗の中
 あり。死物ありとく。その尤不思議の秋且その玉の美丸細小り愛さる。求て
 獲る死宝ありと。小文吾が護符囊小納る成渠ハ今も秘藏せり。加旃小文
 吾ハ市人の子小似ける。総角の比より親と隠し武藝を好む力技のそをせり。
 かも小年ハむりの比ありけん十五歳ある童と相撲をとりて歌ひをいりて投これ
 とも果ハ巴も尻居小りてあり。甚石小醫を撰せし大丸も痣ので来り。年と
 経る隨消失せし痣ハ生憎小濃なる。形牡丹の花小似り。あるととこれらの人
 奇異小涉る。成りて人小告見ハもこのる。知るをさめり。今もあれ小文

吾小あつて件の玉と恋をこころう。真実をて密語へ西人の頼小勝の進むをばえさ。見八の信乃をこころう。其ハいぬ。年彼小文吾小對面。その人柄と知るのうらさ。過世あえん。つやく。ひひみざりた。も額藏の莊助と共ふま。て四人同因。同果の過世あけん。よ小憑。くいと。信乃。うら。点頭。微妙。文五兵衛老人令郎。その勇力の捷。うの。志も世の人小立勝。うら。願ふ。詳小。口。同。れ。然。とうら。微。う。武藝を嗜む。聊又因縁あり。恥。其が素姓をい。安房半園の主ありける。神餘長。光弘朝臣の。羽の臣那古七郎由武が。當初山下柵左衛門定包が。逆謀あり。光弘横死。矢度小五坊を。砍倒せ。その刃も。遂小深。肩。杉平小。其十八歳弱冠。の。仕へ。且。病。け。定包を。志願も。

母の舊里。依り。この行徳。落甲。後小客店。と。及。家。古。唱初。那古の苗字を。轉倒せ。の。市人。父祖。武弁の家臣。と。拙郎小文吾。自然と。武藝を。嗜む。の。欽。身長。五尺九寸。旅。の。あ。子。も。知。里小。拙。大。太。い。悪。棍。あり。その。面。落。の。舞。乃。如。く。足。ハ。伊。勢。蝦。の。殼。の。如。く。その。筋。力。飽。よ。剛。心。悍。く。曲。め。酒。と。賭。博。を。好。ま。ふ。年。来。浦。里。を。横。行。く。あ。る。家。毎。小。或。ハ。錢。を。借。り。戎。ハ。衣。を。借。り。返。ま。さ。り。聊。も。債。を。促。す。の。あ。ま。理。不。盡。小。打。倒。し。錢。を。取。せ。ご。と。已。ま。さ。る。癖。者。あ。り。け。ど。も。領。主。十。葉。殿。の。弓。前。哀。へ。政。良。寺。願。ふ。訴。し。ま。ぐ。も。あ。る。人。皆。毒。蛇。の。如。く。怕。と。く。彼。奴。が。怒。小。觸。れ。の。念。が。燦。て。通。せ。程。小。あ。る。と。大。太。ハ。醉。狂。の。あ。ま。り。里。の。真。中。小。一。條。の。柵。索。を。引。渡。し。索。は。紙。牌。を。結。さ。み。く。この。所。を。過。ぐ。んと。欲。さ。る。の。ハ。錢。百。文。を。出。ま。さ。し。猶。その。錢。を。齎。せ。推。て



亦文吾



小任大
 文名器
 吾心
 拉太
 ぐ 成

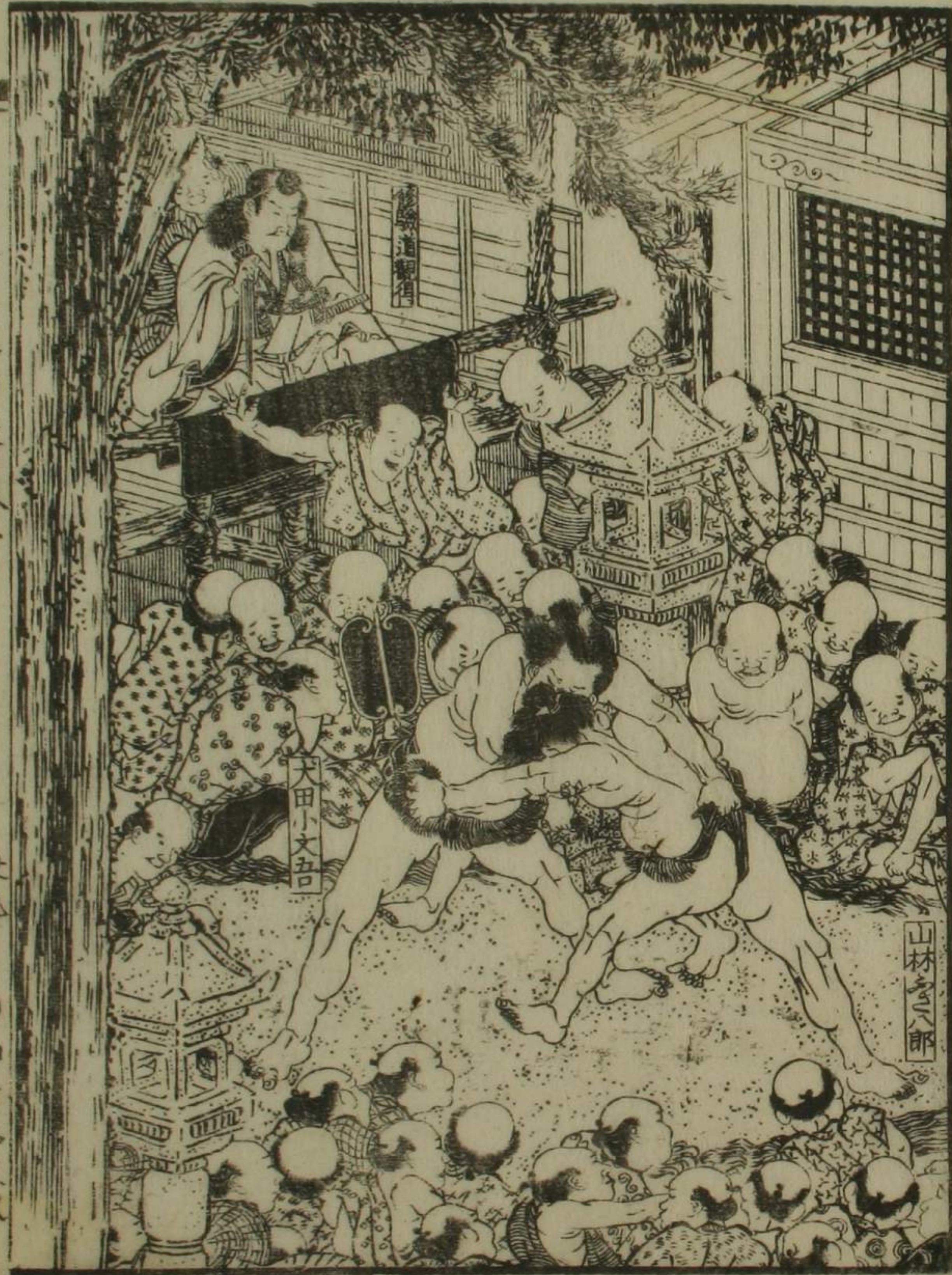
つゝの太

過るめわふ大太が首をひきまじり。大太死とも恨ありと筆太の書つてその
刃のそのやちまき石小尻をうけたり。人愈途を去あはれ。殆難義小及
ひふけり。その年小文吾十六歳竊小大太が悪行を憤り衆人の為親ゆ隠しく
むらりその所は越えの件の索を引割離く人を通さんとまほ程小大太と大く
怒哮く衝と身を起しく。遮苗め榮螺の如く米成固めく小文吾が眉の間を
撲んと進むを引外。足を飛く破と蹴る蹴らるく大太の身を轉し。忽地撞と
倒るを起し。もそむ乗し。かつて中腕を蹴躑ま。さうも小悍死悪振るれども。
骨折けく。手足を胸掻き血を吐くと泉の如く。言句も出せ死けり。當下
立聚る里人。小文吾を比類死働死成。且驚死且歡ひ。感嘆の声を
合し。巻言。さうも彼柳權の大太。当初鎌倉を追放せられ。さう里へ来
つるの。同類もあ。妻子もあ。けり。殺し。さうも。崇へあ。は。は。は。世の人の。遂小

拙郎小綿號。大田小文吾と喚做さ。太の字と田の字と音訓同。惡棍大太を
蹴殺し。里の患を掃く。さう。某の件の。を。次の日。小文吾。一。か。
驚死。拙郎を召つけ。血氣の勇と威め。教訓の辞を盡せ。小文吾。は。く。後悔
と。刀を帯る。も。抜れ。ゆ。人。と。争ふ。も。敷。ゆ。り。も。誓ひ。多。渠。さ。は。孝。心。あ。る。軟。行。心。を
改んと誓ひ。親をよ。の。小。似。さ。り。か。く。又。迫。れ。さ。る。鎌倉。小。大。先。達。念。玉。修
験道。觀得。と。い。ふ。兩。個。の。山。伏。あ。り。け。り。并。小。我。慢。の。惡。僧。あ。れ。ば。武。藝。を。嗜。む。相。撲。と
奴め。先祖。の。兄。弟。小。く。分。さ。る。今。多。あ。ら。う。死。族。あ。る。と。も。年。來。先。達。職。の。所。得。成
争ふ。果。さ。ま。ど。双方。證。の。文。書。あ。ら。ば。兩。管。領。も。今。更。小。黒。白。を。決。る。と。和。談。と。物。の。多。ひ
一。も。あ。ら。う。念。玉。觀。得。は。且。く。その。争。ひ。を。輟。く。譚。ま。さ。う。い。も。か。く。こ。き。壁。言。う。は。ん。
昔。惟。高。惟。仁。同。胞。の。親。王。宝。位。を。争。ひ。多。ひ。時。相。撲。の。勝。負。を。り。く。その。甲。乙。を
定め。の。の。と。ぞ。い。ふ。さ。う。至。尊。も。争。ひ。果。多。の。ゆ。か。る。例。あ。ら。う。あ。ら。う。これ。も。御。也。

相撲をぬめり。呀詮相撲の勝負あり。勝るめり。呀得を増ん負るめり。弟子と
 あんちと。と熟談く。送る誓紙を取る。遂におく。彼此ふ名と。相撲と。莫多り。
 さ。程小念王坊。小文五と。を。傳。けん。み。ぶ。この行徳。指す。渠。相譚。つ
 観得坊。小文五。妹。夫。市川。の。里。入。る。山林。房。八郎。が。脊。力。飽。まで。人。提。れ。春
 法。相。撲。を。善。法。と。仰。ぐ。彼。れ。小。い。れ。く。相。譚。多。件。の。山林。房。八。今。茲。廿。二。歳。あり。
 川。船。數。艘。と。奔。く。生活。と。も。渠。も。亦。総。角。あり。春。法。相。撲。を。嗜。も。既。小。その。技。小
 長。身。長。五。尺。八。寸。脊。力。ハ。山。を。も。抜。く。と。い。ふ。その。名。近。國。不。隠。さ。う。う。さ。ら。と。その。面。影。ハ
 優。美。多。壯。俊。之。斯。の。い。れ。に。立。れ。る。と。も。犬。塚。何。と。い。く。似。たり。呀。云。他人。の。猿。背。有。る。べ。か。く
 本月。十八。日。未。明。より。幡。の。社。頭。にて。件。の。相。撲。あり。けり。東。西。小。棧。敷。を。掛。こ。て。念。王。觀。得
 の。西。修。驗。後。者。と。共。小。こ。成。親。き。彼此。の。里。入。も。見。せ。り。行。司。ハ。西。家。より。一。人。出。し。る。
 初。小。文。五。と。房。八。が。弟子。ども。の。小。せ。り。合。あ。り。その。小。相。撲。九。番。果。て。第十。番。ハ。山林。と

犬。田。が。結。ひ。の。相。撲。あり。彼。西。修。驗。の。棧。敷。さ。り。見。る。の。唾。を。飲。腕。を。扼。て。勝負。と
 呼吸。の間。小。俣。ハ。行。司。ハ。左右。の。氣息。小。合。く。ヤ。ツ。と。引。き。團。扇。と。共。小。双方。存。一。立。あ。り。
 組。別。と。及。不。外。と。技。も。力。も。あ。る。優。さ。も。半。响。な。り。接。あ。る。程。小。こ。ん。か。く。ん。
 小。文。吾。ハ。左。を。差。さ。山林。が。腕。を。閃。り。と。振。斥。け。り。足。操。被。ん。と。さ。り。れ。北。月。を。破。と。撲
 一。歩。房。八。ハ。西。三。歩。走。る。が。如。く。跌。飛。ぐ。俯。し。小。文。倒。と。る。媚。し。と。め。め。ま。も。勝負。小
 咄。と。被。る。声。要。時。ハ。鳴。も。止。り。け。り。小。文。吾。と。房。八。と。睦。み。か。ら。む。某。と
 豫。り。さ。る。の。わ。ん。と。思。量。て。多。く。禁。り。け。り。も。彼。亦。ち。好。む。ま。り。く。人。の
 懇。の。推。辞。く。且。怯。し。る。と。ど。の。い。る。ま。ん。と。外。を。敵。の。と。め。く。竟。小。用。ひ。ど。
 懇。の。い。り。て。けり。と。い。ふ。小。前。と。果。相。撲。打。出。ま。か。如。浦。邊。の。さ。ふ。笛。大。鼓。の。音。の。え
 けり。文。五。兵。衛。ハ。こ。ろ。く。あ。ま。大。止。を。益。の。話。説。小。実。が。入。り。く。西。所。の。疲。勞。も。顧。り。日。の
 暮。る。も。も。忘。れ。り。彼。俚。樂。ハ。牛。頭。天。王。の。神。輿。洗。の。供。奉。船。え。こ。の。浦。里。も。祇。園。會。も。例



八幡の社頭

丸九

山崎堂藏

